

中

(第3種郵便物認可)

# 高校生核廃絶の願い

五月にオバマ米大統領が広島市を訪れた際、公式行事に参加した<sup>あきこ</sup>益進高二年、作原愛理さん(も)広島県府中市が、広島市中区の前爆ドーム前などで同級生らとともに、核兵器廃絶に向けた署名活動を続けている。被爆者とオバマ氏が握手したシーンを目に焼き付け「平和への行動を起こしたい」との思いを強くしている。

(安福晋一郎)

## 広島原爆 あす71年



核兵器廃絶の署名を呼び掛ける作原愛理さん(も)広島市中区の前爆ドーム前で

署名活動は益進中・高(同県福山市)と広島女学院高(広島市中区)、沖縄尚学高(那覇市)の中高生が二〇〇八年に開始。現在までに四十三万筆が集まり、毎年、国連軍縮部へ届けている。

作原さんはヒューマンライツ部に所属。何人もの被爆者の証言を聞き、その悲劇や苦勞に心を動かされた。今春、オバマ氏が広島市を訪問するニュースを知り、五月中旬に「被爆者の話を聞いてほしい」とつづつた大統領宛ての手紙を在日米大使館へ送った。

昨年に米国であった核拡散防止条約(NPT)再検討会議で、広島市の派遣団の一人としてスピーチしたのが縁で、平和記念公園(同市中区)で開かれたオバマ氏の訪問行事に招待された。

## オバマ氏「握手」目に焼き付け

米国側の招待席に座った作原さんは、三日前にいた広島県原爆被害者団体協議会理事長の坪井直さん(も)に近づいたオバマ氏が、手を握りながら坪井さんの話に聞き入り、最後に「サンキュー」と言ったのを聞いた。「七十一年前には考えられなかった光景だと思う。その場にいられたことがうれしかった」と振り返る。

一方、オバマ氏の演説にある「空から死が降ってきた」との言葉には「米軍が落としたのに」と違和感を抱いた。米国民の中に、今も「原爆投下が戦争終結を早めた」との意見があるのは知っている。日本がアジア諸国を侵略した歴史もある。米国に謝罪を求めるべきなのかについて、気持ちの整理は付いていない。

「難しい問題だけれど、一人一人が戦争や原爆投下の是非をもっと考えないといけない」。それが署名活動の原動力となっている。